

# 令和3年度 美作市立勝田小学校学校評価書

美作市立勝田小学校 校長 服部 克彦



## 1 自己評価

### (1) 評価結果

学校評価書 別紙に記入

### (2) 分析・改善方策

#### ① 学力と体力の向上

- ・外部講師に指導助言を仰ぎ、算数科を軸に授業研究の充実を図る。特別支援教育の視点に立ち、個に応じた指導・支援の手立てを明確にし、すべての児童が「わかった」「できた」と実感できる授業を行う。また、主体的な学びと学力向上を目指して、日常的な授業実践交流に取り組む。
- ・児童が主体的に取り組むための授業改善とSSEを推進し、児童の非認知能力を育てることで、落ち着いた学習環境づくり（学級集団づくり）を進める。
- ・家庭学習について、内容や質、間違いの直し方や評価方法、児童のモチベーション等について定期的に検証する。

#### ② 豊かでたくましい心の育成

- ・兄弟学年や縦割り班以外の組み合わせも取り入れ、互いの良さを理解できる場を増やしていく。
- ・異学年と交流することで、自分に自信がもてたり、上級生としての自覚が深まったりするので、意図的に交流を計画するとともに、児童にねらいを自覚させるための事前の投げかけと事後の評価を工夫したい。
- ・アンケートや各種検査等を活用し、細やかな生徒指導や教育相談を充実させる。

#### ③ 15年間を見通した育ちと学びづくり

- ・取組の成果を検証し、連携表を見直すとともに、学期毎に重点的に取り組む項目を決めて組織的に取り組む。
- ・ネット利用ルール徹底のように家庭の教育力に頼る部分は、子どもの実態をしっかり保護者に情報発信し、啓発を図る。

## 2 学校関係者評価委員氏名(6名)

- |                      |                |
|----------------------|----------------|
| ・森元 雅人 (評価委員長・学校評議員) | ・水島 明美 (学校評議員) |
| ・下山 文男 (学校評議員)       | ・福島 信夫 (学校評議員) |
| ・山根 忠弘 (学校評議員)       | ・新免美紀恵 (学校評議員) |

## 3 学校関係者評価

- ・勝田小は少人数のクラスが多く、個人の課題を捉えやすいということを生かして、きめ細やかな支援を継続してほしい。
- ・児童の関心や意欲をかき立てるような発問を精選し、授業に取り組まれているところに児童に対する真摯な姿が認められる。
- ・「授業は楽しく、わかりやすい」(児童アンケート100%)は授業改善効果のあらわれであり、素晴らしい。
- ・子ども達のがんばりを認め、タイムリーに褒めることが大切で、そのことによる子ども達のプラスの変容が保護者の信頼にもつながっている。
- ・キャリア教育を通して、夢をもつことや将来の自分のめざす姿をイメージすることの大切さを伝えていく必要がある。
- ・中学校で2小が合同で学ぶことのメリットは大きく、人間関係ができて中学校に入学できるし、中1ギャップ解消にもつながるのではないかと。

#### 4 来年度の取組の重点(学校評価を踏まえた今後の方向性)

##### (1) 学力と体力の向上

研究テーマ『特別支援教育の視点をもった授業づくり』

～だれにとってもわかりやすい算数の授業を通して～

- ・授業改革の徹底（授業力の向上）  
だれもが「わかった」「できた」と実感できる授業づくり  
(特別支援教育の視点をもった配慮と工夫)
- ・表現力を育てる「言語活動」の充実（授業のふり返りをしっかり書く）
- ・読書活動の充実（言語能力、読解力の育成）
- ・補充学習の取組の徹底（朝学習及び放課後補充学習強化月間の計画・実施）
- ・家庭学習の充実と習慣化（選択課題・自主学習等の工夫）
- ・自主的に運動に親しみ、目標を持って体力づくりに取り組む環境の整備

##### (2) 特別支援教育の充実

- ・細やかな情報共有と環境づくり（校内体制整備・「15の春プロジェクト」での連携）
- ・特別支援学級を核とした個に応じた指導・支援体制の構築
- ・特別支援教育に対する理解の促進
- ・校内委員会の活性化と関係校・関係機関との連携促進

##### (3) 落ち着いた学習環境づくり

- ・積極的な児童理解の徹底「寄り添い、変化を見取る」「当たり前を褒める」
- ・児童相互が認め合い、高め合う学級集団づくり（思いをつなぐ学級経営）
- ・言葉を大切に、自分の思いを表現する力の育成（正しく、温かい言葉遣い）
- ・特別の教科「道徳」を軸とした「道徳教育」「人権教育」の充実・徹底
- ・教育相談の充実（i-check・各種アンケート等の活用、SCとの連携）
- ・未然予防と早期対応を基本とした危機管理・生徒指導（報告・連絡・相談・確認の徹底）
- ・保護者との連携強化（細やかな情報共有と丁寧で密な対応）

##### (4) 自己有用感の育成

- ・地域と協働した多様な体験や学びづくり（地域学習・学校支援ボランティア・外部講師）
- ・特別活動の活性化（望ましいリーダーの育成と主体的・自治的な活動の考案）
- ・意図的な異年齢及び異学年での交流活動（縦割り班、兄弟学年）
- ・人権意識や規範意識の醸成、自尊感情や人間関係構築力の育成

##### (5) 「15の春プロジェクト」の深化

- ・小中一貫教育カリキュラムの推進（「学びの時間」の活用）
- ・保小連携及び小小連携の促進  
(スタートカリキュラム・情報共有・園と連携した就学指導・2小合同体育)
- ・キャリア教育の充実（総合的な学習の時間の計画的な実施）
- ・「学びと育ちの連携表」の活用・保護者への啓発

##### (6) 「チームで動く」協働体制づくりと人材育成（認める、支える、高める教職員集団）

- ・主体的、組織的に、徹底する（見通しと細やかなPDCAサイクル）
- ・各分掌「チーム」での創造的な活動による組織の活性化
- ・「子どものために」という基本姿勢（「楽しむ」発想と熱意）
- ・校内OJTを中心とした人材育成の推進